



ASP方式によるWebGISの利用 - 地域の安心・安全情報の提供事例

樋口 学¹

1. はじめに

最近、子供がターゲットとなった事件のニュースが後をたたない。また、ニュース沙汰にならなくても、不審者の出没や、子供への声掛けといった、些細な事件等も多数発生しているのが現状である。地域を通して、自警意識が高まっており、PTAを中心とした見回り組織を結成したり、こども110番の家を設置したりと、数々の運動が起こっている。その中で有効な情報提供手段として、携帯メールやホームページといったインターネットが活用されている。特に、WebGISを使うことにより「家の近所で何が起きているのか」を、簡単に判りやすく表現することができる。地図を使って視覚的に、また、お手軽なインターネットの地図を、いつでも見ることができるのが、このシステムの特徴である。

このように、今回は、WebGISをASP方式によって提供されている「地域の安心・安全情報」についての事例紹介を行う。

2. WebGISによる地域の安心・安全情報の提供事例

WebGISによる地域の安心・安全情報とは、次のようなものがある。

- 1) 事件として立件された情報をそのまま提供
- 2) 事件として立件された情報を統計処理して提供
- 3) 不審者情報など住民から通報・提供され

た情報を提供

また、情報提供元として、

- ア) 各地の警察から
- イ) 自治体から（警察から連絡を受ける場合と独自で入手する場合とあり）
- ウ) 住民やNPO、ボランティア組織等から

以上のように、様々な手法により提供されるが、特に情報提供元の組織が、システムについて専門的な知識が無い場合や、予算的に限られている場合も多く、ASPを活用して効率的に情報提供している事例が多いのが現状である。

それでは、各地の事例を紹介する。

2.1 都道府県警察本部の事例

各地の警察本部にて住民の生活安全を守る目的から、2、3年前より情報提供が始まった。犯罪の内容により、被害者の保護を目的として、統計処理を施した情報提供の場合と、特にひったくりのような路上犯罪については、位置を特定して情報提供する場合とがある。

図1のような町丁目毎のランキングマップであれば、簡単な集計だけで地図を作成することができる。色の濃淡で、犯罪の多発地帯が一目瞭然でわかる。図2のようなメッシュによる発生密度図は、主にカーネル密度推定法といわれる手法をもとに、発生密度を統計処理して表示したものである。より詳細な発生分布を分析する場合に効果的である。図3のような発生ポイント図は単純に発生地点を表示したものである。この場合でも、プライ

¹ (株)パスコ

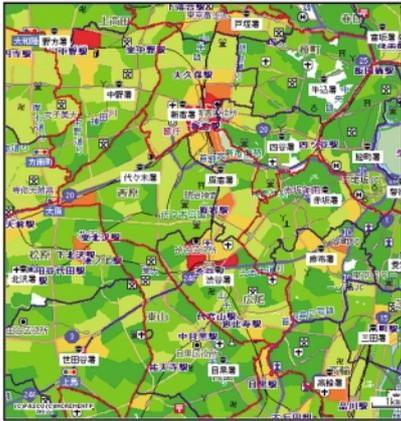


図1 町丁目毎の発生状況
(警視庁犯罪マップ)



図2 メッシュの発生密度
(岡山県警くらしの安全WebMAP)



図3 発生ポイント図
(岡山県警くらしの安全WebMAP)

バシー保護の観点で、あまり拡大できないようにしたり、実際の場所からずらしたりして、調整しているケースもある。

2.2 市町村の事例

市役所等に不審者情報が寄せられた場合、その場所を情報提供するケースが多い。特に、学校や住民、警察等からの情報提供を受けて、リアルタイムに地図上に表示し、住民に連絡する。一斉配信メール機能と連動させて、不審者情報をメールで送信し、具体的な場所は地図で確認してもらうといった機能を活用している自治体もある。より身近な情報をタイムリーに提供できるのが市町村の特徴である。



図4 市町村の不審者情報
(栗東市不審者情報マップ)

3. まとめ

以上のようにWebGISの活用は、我々に安心安全情報を的確に提供するのに効果を発揮している。今後は、例えばGPSと連携することにより、犯罪発生すると同時に近くにいる人にピンポイントで情報を提供する等の技術も要求されている。今後も社会のニーズに対応すべく、さらなる技術開発を続けていくことを考える。

(発表日2006年7月7日)

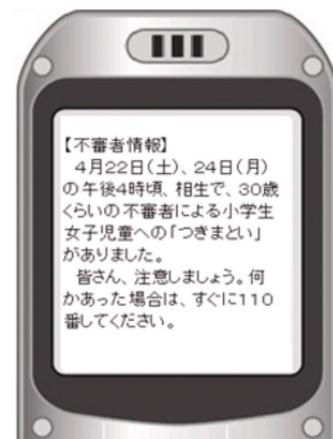


図5 安心メール

発表者紹介

樋口 学(ひぐち まなぶ)

所属：株式会社パスコ システム事業部
公共ソリューション技術部